

議会だより

かたしな

No. 115 平成20年2月20日発行



PHOTO

銚子市明神小学校との交歓会

主な内容

常任委員会行政視察報告	2~3
臨時議会（平成19年11月15日）	4
12月定例議会で決めたこと（平成19年12月7日~14日）	4~5
村政を問う 4名が一般質問	6~8
編集後記	10

「視察報告」

◆ 総務文教常任委員会

* 視察の期日

平成19年10月17日～18日

* 視察の場所

長野県下伊那郡下條村・北安曇郡白馬村

* 視察の目的

子育て支援と村づくり・白馬村観光局の活動



下條村の若者定住促進住宅

* 視察の概要

① 下條村の子育て支援と村づくり

下條村は生涯出生率1・97人の子供と若者が多い暮らしやすい村です。

村は、10年前から自費で若者定住促進住宅を178戸建設。2LDK、家賃3万6,000円で子供がいるか、これから結婚する若者で消防団への加入を条件に募集した。飯田市に近いためほとんどの住宅に入居者があり、子供がいつばい居ます。

平成16年度から中学卒業までの医療費無料化、保育料の引き下げを行った。

役場の職員は、退職者が出ても補充せず、60人を34人に削減した（人口千人あたり8人）。

資材支給事業として住民自らが施工する村道、農道、水路整備工事等に村がその資材を支給している。

下水道は、合併浄化槽で全村整備した。

村の借金残高は6億7,000万円、貯金2億3,000万円、差引約20億円の貯金がある。伊藤下條村長は「思い切ったことを10年以上してきた。それでもしないと、過疎の村が自立するのは難しい」と言っている。

② 白馬村観光局の活動

白馬村は片品村と同じ7つのスキー場がある。スキー客はピーク時の43%と半数以下となった。

有限責任中間法人白馬村観光局は村内の4つの観光協会が観光再生のために官民一体となって設立し、豊かな自然を生かし多様化する観光志向に対応できる環境の整備、四季を通じての観光客誘致、国際観光の推進を行うことにより観光関係産業の振興を図り地域経済の活性化に

努めている。

スキー市場はいまだに下げ止まりに至らず縮小傾向が続いており、冬のスキー客に依存度の高い白馬村の観光はきびしい状況にある。

視察に対応してくれた常勤理事は、「行政主導の観光事業に将来はない」と言っていた。



白馬村観光局前で記念撮影

* 視察の結果

下條村と白馬村の視察をとおして、片品村が今後やらなければならぬ課題として、次のようなことが考えられる。

- ・ 村営観光施設事業全体の民営化
- ・ 中学卒業までの医療費無料化
- ・ 役場職員数の削減

- ・行財政改革を断行して借金を減らし貯金を増やす
 - ・四季を通じた観光客の誘致
 - ・むら人足による道路や水路等の補修工事を推進する
 - ・保育料の引き下げ
- 出来ることから早期に実行しなければなりません。

◆観光産業常任委員会

* 視察の期日

平成19年11月6日～7日

* 視察の場所

- ① 岩手県遠野市森林のくに遠野
- ② 岩手県盛岡市盛岡手づくり村



遠野木工団地の視察

* 視察の目的

- ① 遠野式循環型林産業の新システムについて
- ② 地場産業の振興及び育成について

* 視察の概要

① 遠野市は「遠野物語」で知られ、通称木工団地と呼ばれる敷地内に林業・木材加工産業・住宅産業などの施設がありました。「循環型社会」の実現のために自然を守るバランスと自然を育てるシステムの構築という視点から、林業活性化プロジェクトを進める。

② 盛岡市では、岩手県の県庁所在地として、地場産業総合的振興策が図られている。盛岡手づくり村は、「財団法人盛岡地域地場産業振興センター」が委託で総合的な維持管理を行っています。

* 視察の結果

① バイオマスタウン構想として有機質堆肥による土づくり、木質系バイオマスエネルギー活用の一環として木質ペレットを使った「保育園児童館の床暖房とパネルヒーター」及び「ロードヒーティング」の2つを視察しました。建物は集成材加工したカラマツなどを使い、子供の教育環境を考慮した造りで遠野の木を加工し、活かし、山に木を植え森林を守り未来につなげる取り組みでした。片品村でも片品に合った循環型システムを構築すべきだと思います。

② 盛岡手づくり村は、「みる」「ふれる」「つくる」

ことのできる複合施設で、使い手と作り手が直接触れ合って交流する場、来場する人もここ一箇所で盛岡を知ることができ、修学旅行のコースなどにも取り入れられ観光産業振興にもつながっていると感じました。協力会と年間イベントや講習会を催したり、生徒の作品を販売するなど職人育成と地域振興策を連携させていると思いました。片品村でも今まで以上に連携した地域振興が必要だと考えます。



盛岡手づくり村での研修風景

【臨時議会】

11月15日

道路特定財源の一般財源化反対に関する意見書提出のため、臨時議会が開催され可決し、関係機関に提出しました。

○道路特定財源の一般財源化反対に関する意見書

一、中期的な道路整備「中期計画」の策定にあたっては、各町村の意見を尊重し、地域の実情を踏まえた事業を効率的かつ効果的に実施することができるとの計画とすること。

二、立ち遅れている地域の道路整備を促進するため、道路特定財源を一般財源化することなく、十分に確保し、地方への配分割合を大幅に引き上げること。以上2点について積極的な措置を講じるよう強く要望しました。

【提出先】

衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・総務大臣・財務大臣・国土交通大臣

■平成19年度の補正予算

○一般会計

8,415万円を減額して、歳入歳出の各予算総額は、34億3,182.5万円となった。

歳入は、戸倉ダム中止による「まちづくり交付金事業の博遊館建設事業(総額2億2,000万円)を平成19年と平成20年の2年にかけて行うことにより、平成20年度分の1億2,620万円(国庫補助金)を継続費としたため減額となったが、地方交付税は3,942万円が増額となった。

(平成19年度交付税は16億2,169万円)

歳出は、国民健康保険特別会計繰出金1,331.7万円、介護保険特別会計繰出金855.4万円、児童手当336万円、片中パソコン整備費684万円が増額となった。(博遊館建設事業費・平成20年度分1億2,620万円は継続費となり減額となった。)

○国民健康保険特別会計

5,059.9万円を追加して歳入歳出の各予算総額は7億9,284.4万円となった。

歳入は、一般会計より繰入金1,331.7万円(繰入金合計3,637.5万円)、国庫補助金1,600万円、療養給付費交付金1,500万円が増額となった。

歳出は、一般・退職被保険者療養給付費3,800万円、一般・退職被保険者高額療養費763.5万円等が増額となった。

○観光施設事業特別会計

過年度損益修正により約7,000万円の増額補正がありました。

○介護保険特別会計

1,869.9万円を追加して歳入歳出の各予算総額は3億2,930.9万円となった。

歳入は、一般会計より繰入金855.4万円(繰入金合計5,544.3万円)国庫支出金371.6万円、支払基金交付金476.3万円が増額となった。

歳出は、介護サービス等諸費1,600万円が増額となった。

○下水道事業特別会計

36万円を減額し歳入歳出の各予算総額は2億4,470.6万円と定めた。

歳入は、一般会計繰入金36万円を減額した。

歳出は、消費税150万円の減額、光熱水費100万円の増額があった。

〈12月定例会で決まったこと〉

◎片品村課設置条例が改正

平成20年4月1日より事業課・生活環境課が廃止された5課に、「総務課・住民課・保健福祉課・農林建設課・むらづくり観光課」

◎片品村共同墓地設置及び使用条例等の一部改正

課の廃止に伴い条例中の「生活環境課」を「農林建設課」に「事業課」を「むらづくり観光課」に改め平成20年4月1日より施行。

◎片品村職員の給与に関する条例の一部改正

国の人事院勧告により改正をおこない平成19年4月1日より適用する。

一、配偶者を除く扶養手当を月額6,000円から6,500円に、

二、職員の勤勉手当の支給額を改正。

再任用以外の職員

↑「100分の72・5」
↓「100分の75」

特定幹部職員
「100分の92・5」
↓「100分の95」

◎片品村下水道条例の
一部を改正

◎片品村農業集落排水
処理施設の設置及び
管理に関する条例の
一部を改正

下水道及び農業排の
使用料金が4月から値
下げになります。
基本料金1ヶ月90
0円、超過料金は50m
mまで1m当たり90円、
51m以上は1000円に
なりました。

◎片品村生活環境整備
推進資金融通特別措
置条例の一部を改正

◎指定管理者の指定
老人憩いの家を第4
区、寄居山温泉センタ
ーを片品村農業協同組
合に管理委託すること
に決まった。

◎職務に専念する義務
の特例に関する条例
の一部を改正

第2条第1項第3号
を次のように改める。
職員団体の代表とし
て村当局と交渉を行う
場合。

◎片品村戸倉地区公園
の設置及び管理に関
する条例の一部を改
正

第2条第1項第1号
の次に、十二の森公園、
利根郡片品村大字戸倉
小梅518番地 他、
を加える。

◎利根沼田広域市町村
圏振興整備組合の共
同処理する事務の変
更及び組合規約の変
更に関する協議につ
いて

特別養護老人ホーム
の建設費補助に関する
事務を削る。

こんな質疑が
ありました

★片品村職員の給与に
関する条例の一部を
改正する条例について

問（大竹文夫議員）

片品村職員の給与に
関する条例の一部を改
正する件について、2
点質問。

1点目は、現在片品
村が進めている行財政
改革の中で村民の了承
を得るのは難しいと考
えるが村長はどう思う
か。

2点目として、正規
の職員の改定がなされ
る中で、臨時職員やパ
ート職員の今後の処遇
についてどう考えるか
お聞きしたい。

答（総務課長）

平成11年度から8年
間減額が続いた。19年
度は9年ぶりに引き上
げの勧告である。

この給与実態につき
地域実態と比較してど
うか、という点につい
てですが、本来村内の
正確な実態調査に基づ
いて勧告をし、給与の
取り扱いを行うべきで
ありますが、片品村の
ような小さい自治体に

とって、非常に難しい
ものがあります。小さ
い自治体も含めて市町
村レベルでは国の人事
院勧告に基づいて、そ
の内容に沿ってこれを
行っているのが実態で
ございます。

過去には、後追いで
勧告もあつたわけで、
それを行っていくこと
が公平な片品村職員の
給与の支給に通じるも
のと考える。

問（村長）

2点目の質問につい
てですが、パート・臨
時職員については、生
活の糧として働いてい
ると思う。臨時、パ
ート職員を続けて採用で
きるよう努力したい。
正規の職員は、極力抑
えていきたいと考える。

★指定管理者の指定に
ついて

問（大竹文夫議員）

寄居山温泉センタ
ーについて、9月30日の
募集期限には片品農協
を除いた3団体から申
し込みがあつたと聞い
ている。最終的に農協
を指定するに至つた経
緯と理由についてお聞
きしたい。

答（副村長）

この選定について、
村としては指定管理者
に移行し、村からの持
ち出しを1円でも少な
くしたいというのが大
きな理由である。

9月30日までの公募
をし、3団体の公募が
あつたが不足書類があ
つたため、再度書類の
提出をお願いした。
片品農協については、
9月30日以降の申込み
であつたが、議会の議
決に間に合うという判
断のもとに選定委員会
を開き、今回のような
提案をした。

問（大竹文夫議員）

期限は過ぎていたが、
ほかの団体にも意欲を
聞いていることを村民
に知らせる必要があ
つたのではないかと
結論的に指定につい
ては賛成するが、今後
村民に透明性が保障さ
れるような形で進めら
れることを望む。

次の2議案、
議事日程に
上がるが、
撤回へ

●議案第59号 特別職
の職員で常勤のもの
の給与及び旅費に関
する条例の一部を改
正する

●議案第60号 議会の
議員の報酬及び費用
弁償等に関する条例
の一部を改正する

議案第59号、60号に
ついては、第7回片品
村議会定例会の議事
日程に上がったが、村
当局より議案撤回の
申し出があり、これを
議会としても十分検討

「この時期、特別職
及び議員の報酬、手
当等の昇給の条例改
正案は考えられない」と
の全議員の意見とし、
村当局の議案撤回の
申し出を受け入れた。

一般質問

議員4人村政を問う

◆村の高齢化率と

老人医療と

その抜本対策



戸丸 廣安議員



桜苑からの出展(農協まつり)

○ 少子化高齢化は、片品村でも避けて通れない課題となった。それを分析し、遅れない対応をとりたいものだ。片品村の高齢者の実数と全村民中の高齢者の割合は？ ここ数年の村の高齢化率は？

○ (村長)

12月6日現在の住民基本台帳人口は、5,583人で、そのうち65歳以上の方は、1,529人です。人口に占める割合は27.4%。平成15年は25.4%、16年は25.7%、17年は26.2%、18年は26.8%と確実に増えている。

昭和22年から24年までに生まれた団塊世代は316人です。それに対し0歳から2歳までの子供は88人です。団塊世代も5年後には高齢者の仲間入りをし、この間、出生率が改善されなければ更なる高齢化率となる。今後の見直しは推計するのが難しい。

何も対策を講じなければ近い将来、3人に1人は高齢者の村となってしまう。過疎対策事業、村の基幹産業である観光と農業の振興、「小さくても輝く村づくり」に邁進してゆきます。

○ 老人医療費の現状は？ ここ4、5年間の伸び率とその実数は？ 今後の医療費変化をどう推測するか？

○ (村長)

総医療費で、平成14年度は5億5,429万6,000円、15年度は6億1,901万8,000円で11.7%の増、16年度は6億3,019万9,000円で1.8%の増、17年度は6億3,509万9,000円で0.8%の増、18年度は6億2,882万2,000円で5.1%の減だった。

平成20年4月からの75歳以上の方を対象にした高齢者医療については、群馬県後期高齢者医療広域連合に引きつがれる。

○ 待ったなしでやって来る高齢化社会を予測して、どう抜本的な対策を講じるつもりか？ 在

宅医療の推進を最大重視するか？ それ以上に高齢者とその家族が生き生き暮らす方策はあるか？ 村独自の「いきいきくらぶ」の成果は？

○ (村長)

村の総合計画では、保健・福祉部門の中で高齢者福祉を取り上げ、これの実現に努力している。(国では)介護保険・障害者福祉・高齢者医療などの制度改正が多く行われており、それらへの対応に苦慮している。

在宅医療については、入院が在宅か病状などにより本人や家族の意思が尊重される時代となり、また医療法の改正により医療機関は積極的治療の一段落した患者には退院を余儀なくさせている実態もあり、在宅での看護が増えている。「いきいきくらぶ」事業は、介護保険制度の見直しの中で国が示した介護予防事業の特定高齢者対策事業として、平成18年度から実施している。18年度は、9月から3月まで25回実施し、参加者は延べ人数で247人だった。「いきいきくらぶ」に参加することで、張り合いになっていく。地区のつき合いなじめない方も引きこもりにならないでいる、人と会うことが刺激となって身体的な機能低下の予防や認知症の予防になっているなど、参加者には意義あるものだったと思われる。事業を始めて2年目でして、内容の充実に努めてゆきます。

○ 対応に苦慮しているという表現は、具体的にどういうことか？

○ (保健福祉課長)

今、国をあげて社会福祉の基盤の見直しが行われている。(関連する)法律がどんどん改正され、その対応に追われているのが実態です。それで苦慮という言葉が出たわけです。

○ 対策という点で、村長、答弁を。

○ (村長)

少子高齢化が改善されなければ抜本的な改革はできない、そのように考えている。

◆観光振興対策 について



高橋 正治議員

問 片品村の発展に大きく貢献をしてきた観光産業ですが、近年観光客は著しく減少し依然として厳しい状況の中、片品村発展に必要不可欠である観光対策についてどのように取り組むのか、また、取り組んでいるのか。

答 片品村の観光産業は、尾瀬を背景に多くの歴史を積み重ねながら今日を築きあげてきた。観光客数は、ピーク時に年間380万人をこえ大きく発展してまいりました。

しかしながら、時代の流れや、景気の低迷、社会状況の変化とともに近年の観光客数は減少し、大変厳しい状況が続いております。このような中、片品村を代表する尾瀬が平成17年に重要な湿地として、ラムサール条約に登録され、更に本年8月30日には日光国立公園から分離独立し、我が国では29番目の国立公園に指定されました。

この尾瀬国立公園の誕生を機に、尾瀬国立公園記念事業実行委員会を設置し、尾瀬フェスティバル、映画祭、尾瀬の郷オゾンシアターを開催するとともに、来年度には尾瀬文学賞の創設や音楽祭の開催を予定しております。

また、群馬県・福島県・新潟県等の10団体で協力をして国立公園ロゴマークの制定、尾瀬のDVD、パンフレットの作成、記念式典の開催等を予定しており、片品村を始めとする関係者が結集し全国にアピールをしています。

なお、安全で質の高い優良商品を片品村のブランド商品として、積極的に村内外へ広報、宣伝を行い消費の拡大を図り合わせて片品村の宣伝に努めるための尾瀬ブランド品の認定事業に着手をいたしました。

また、尾瀬の郷親善大使を昨年委嘱し様々な機会を通じ、片品村の宣伝をしていただいております。こうした取り組みが頑張る地方応援プログラムとして、特別交付税に算定され国より交付金をいただいております。今後も恵まれた資源を大いに活用し、観光協会、観光に携わる方々と協力し「行ってみよう・また行ってみよう・また来たい」と言われる片品村にするために、関係者と知恵をしばり汗をかいてまいります。

◆老朽化が進む橋梁整備計画について

問 現在群馬県において橋谷橋の建設、村においては摺淵橋の建設が着々と進められており1日も早い完成を待ち望んでいるところであり、しかしながら、老朽化が進んでいる御座入橋、塗川橋を始めとする橋梁の整備計画についてはどのような対応を講じるのか。

答 村管理の橋梁の改良整備については、多額な費用を要しますので村単独での整備は厳しい財政状況中で難しい状況であり国・県の補助事業及び県代行事業によつて整備を図っていきたいと考えています。現在では、摺淵橋の架け替えを国土交通省と協力をし、国の補助事業の採

択を得て実施をしております。さらに、山村振興計画の中で御座入橋の掛け替えを県代行事業として取り組んでいる状況であります。

また、各地区から要望されている橋梁の整備については住民生活に影響がでないよう国県の補助事業を模索しながら進めていきたいと考えております。



老朽化が進む御座入橋

◆各地区の要望 事項について



星野 侃三議員

問 村全体でどのくらいがあるのですか。聞いてどのくらい実行できたのですか。

答 平成20年度176件、平成19年度は204件で実施済27件、予定11件です。

問 基準はあるのですか。

答 緊急性の高いものから実施してます。

問 聞いてみるだけでしたら意味がないと思いませんが。

答 財政基盤を固めつつできることからやっていきたい。

◆子育て支援の 拡充を



星野 育雄議員

問 村民の長年の悲願であった椎坂トンネルがルートの一部変更することで関係者が合意した。12月5日には、国道120号線整備改良促進期成同盟会が現道を利用したトンネル計画に見直すことを求める要望書を群馬県知事に提出した。県幹部は要望を前向きに検討したい。ほかに障害はないと思われるので数年後には開通できるのではないかと語った。

12月10日の県議会で知事は「要望された新ルートを基本とした道路を検討したい」と述べ、計画を見直す考えを明らかにした。県は今後、現

国道を利用した新ルートの設計に取りかかると新聞で報道された。
椎坂トンネルが開通すれば、子育て、若者の定住、通勤、通学、通院等村民の日常生活に便利だけでなく観光客の増加にもつながると思う。村はトンネルが開通するまで沼田市と連携し誠心誠意、県や国にお願いをしていかなければならないと思うが。
問 椎坂バイパスの着工はどうしても必要であり慎重に対応してきた。特に国会議員や星野期成同盟会長をはじめ沼田市の多くの方々の努力と協力があつて今こうしたすばらしいかたちで進んでいる。



椎坂トンネルが予定される国道120号線
白沢町生枝付近

問 片品村の人口は年々減少し、少子高齢化が進んでいる。

働く場が少ないため子供たちは都会へ就職し高齢者だけの家が増え老人介護が深刻な問題になっている。少子高齢化が進むなかで若い人達が安心して子育てができる条件整備をすることが国や地方公共団体に求められている。

片品村には15才以下の児童が810人いる。中学校卒業までの医療費無料化を早期に実施すべきではないか。

答 実現に向けて努力していく。

問 片品村奨学金貸与希望者が増加しているが基金不足から減額している。奨学金を増額して子供たちの大学教育支援強化をはかるべきではないか。

答 厳しい財政状況なので現状での利用促進をはかる。

問 若者の働く場を確保するために片品に適した優良企業の誘致を実現するべきではないか。

答 企業誘致の実現は県と連携しながら推進していく。

問 結婚促進対策として、片品村が独身男女の出会いを支援する「ぐんま赤い糸プロジェクト」の会員登録をしてはどうか。

答 村としても、できることについては取り組んでいく。

問 村営住宅のトイレを水洗に改修すべきだと思ふがどうか。

答 現在の厳しい財政状況のなかでは難しい。

請願陳情審査結果一覧表

請 願

受理年月日	件名及び要件	請願者	紹介議員氏名	付託委員会	審議結果
平成19年 11月30日	第一区上郷道路バス運行に関する請願	片品村第一区 長 星野益夫	戸丸 廣安	観光産業	趣旨採択
	第1区上郷(菅沼、築地、下平)地域は、バス路線が無く児童・生徒の通学や自家用車の無い老人等が医者に行く場合など大変不便している。現在の鎌田一花咲線を上郷へ通るルートに変更していただき、バス利用者の増をはかれたらというものです。立沢からの登り口付近の狭小箇所が冬季間通行困難であり、運行上の問題として道路改良などの整備を進め、安全面が確保されることが必要である。				

陳 情

受理年月日	件名及び要件	陳情者	付託委員会	審議結果
平成19年 11月19日	地方切り捨てを許さず群馬県所在国土交通省事務所の存続を求める陳情	国土交通省全建設労働組合 関東地方本部群馬県協議会 議長 神保 悟	観光産業	採 択
	毎年のように各地で洪水・土砂崩落・地震などの災害により国民の尊い命と財産が失われている。このような災害時の対応も含め存続は重要であり、今後も地方の住民生活に密着した事業予算の配分を求めるため関係機関に働きかけたい。			
平成19年 11月29日	自立支援法の出直しを求める意見書についての陳情	群馬介護保障を考える会 代表 松本義久	総務文教	採 択
	障害者自立支援法が前面施行されたところであるが、自立を阻害する様々な問題があるため、法律全体を見直し、障害者が自立するために福祉サービス等の利用に際し、個人負担が軽減されるよう支援法の見直しについて関係機関に働きかけたい。			
平成19年 11月29日	障害者自立支援対策の充実を求める陳情	群馬介護保障を考える会 代表 松本義久	総務文教	継続審査
	さらなる調査検討を要する。			

人 事

◇教育委員に

萩原 壮克氏(戸倉)



◇このたび、観光産業常任委員会の

委員長に

星野 千里氏

副委員長に

星野 侃三氏

◇議会運営委員会委員に、星長命氏の後任として星野侃三氏が選任されました。



《意見書》

以下の、二つの意見書が可決され、よって関係者に提出しました。

■障害者自立支援法の見直しを求める意見書

障害者自立支援法が全面施行されてから、自立を阻害する様々な問題が噴出し、多くの障害者や事業者から修正を求める声が上がっています。

国も「利用者負担の更なる軽減」等の施策を示したが、この程度の改善で自立阻害が解消されるとは思われません。各自自治体においても独自の対策を取らざるを得ない状況であります。群馬県でもさらなる負担軽減などの独自対策が取られています。

しかし、こうした対策で問題解決に充分とは言えない。やはり、国が責任をもって法律全体の根本的な見直しを求めます。

(提出先)
内閣総理大臣、厚生労働大臣

■地方切り捨てを許さず群馬県所在国士交通省事務所の存続を求める意見書

次の事項について、実現されるよう要望しました。

① 公共事業の予算配分を、国民の安心・安全を確保するための防災・国土保全、社会資本の維持管理、国民の生活関連に重点配分して下さい。

② 国民の生命と財産を守る公共事業を推進するため、国土交通省関東地方整備局の廃止を行わず、群馬県内所在の関東地方整備局出張所・出張所を存続するとともに、災害時にも十分な業務執行ができるよう人員を確保して下さい。

③ 財産の移譲を伴わない地方分権は行わない下さい。

(提出先)
内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣



越本御神火祭

● 編集後記 ●

国においては衆参ねじれ現象の中、第168回臨時国会も2回の延長がされ、57年ぶりの衆議院再議決(アロ対策海上阻止行動に対する補給支援活動の実施に関する特別措置法)という与野党攻防の中、新春を迎え今国会においても、ガソリンの暫定税率をめぐってマスコミも含め論戦を繰り広げている。

さて12月定例議会は、昨年12月7日から12月14日までの8日間にわたり開催され、条例の制定、一部改正、教育委員の任命等が審議された。また、各スキー場においては今シーズンの降雪安全祈願祭がおこなわれ、多くのお客さんを待ち望み、更なる降雪を期待しているところである。燃料の高騰も重なりスキー産業の低迷も続く中、村内の各スキー事業所においては、独自の努力を重ね日夜懸命に生き残りを掛けて戦っている事と推察する。

自主独立を選択し、村民力を合わせて進んでいくことを決断した片品にとって、内需低迷の時を如何に生き抜くか、みんなで知恵を出し合い議論を重ね、迅速に対応することが必要と考える。最後に平成20年が、村民一人一人にとって最良の年となることを願って後記を結びたい。

【萩原 一志記】

発行 片品村議会
 発行責任者 萩原日郎
 編集委員 ◎萩原一志
 ○星野侃三
 入澤登喜夫
 星野育雄
 笠原耕作
 飯塚美明
 戸丸廣安
 印刷所 笠原印刷有限公司

お知らせ ◎ 次回定例会 3月6日(木)～14日(金)の予定です。
 一般質問は14日の予定です。みなさんの傍聴お待ちしております
 【問い合わせ TEL 58-2119】